

香もそゞろ

奇しきをのふる

永き世の

ゑにしつゝみて

畏怖おそれある

うつし裸形らみぎよ、

逆捲さかまかば

こゝしき巖

横打よこたば

光榮はくわのいらかも

命運さだめ説く

短

詩

隠者たんじやが呪ひ

凋落ちようらくの

「時」の潮流かたれや、

寂れさびかに

ひゞきて冥府よみへ

秋重あきき

悲愁かなしみの律

回想おもひの

美はしき心火こころに

めぐりては

涙なみだぞうごく』

秋の野の千草の精は露とこりて月すむ空に香をみなぎらす

振袖は秋草摸様 京の子が夜目にもきよき眞白優額

寂寥は幽かに薫る 青潮の遠音のごとも胸に泌みいる

白  
月

野の水の浮藻にうつる天の川浮藻ゆ〜夜はしづかなり  
 秋の香の草の戸深く浸み入るか思ひ寝衣露ひやかに  
 夢追いて野を淋とはぬ小兎や月の御座のごよみにさめぬ  
 宵寒き四辻灯細の雨の夜や骸は抱きて戀語り行く  
 高榮の美き日潮の華とあれて太洋に千歳の戀の譜とかむ  
 みだれ心秋は戸をうつ風だにも冥府より誘ふ聲ときかる  
 寐しければ泣かるればこそ人をこひめ秋はそとちる一葉もにがき  
 たとへなば森にさびれし古宮の扉をうつ雨ときし流れや  
 かたこととたくみが鑿の音はして夕べ雨ふる静けき秋よ  
 尖塔に夕日榮ねたる野の寺や白きひな鳩皆かへり来る  
 大空に千羽鳥たつ姿して夕日の岡の銀杏ふきさる  
 谷々は三悪道か大紅蓮焰乱れて紅紅するかな

黛南

不割石

蘆笛

花髯郎  
柴郎

紫溟吟社句集

三十九年十一月九日久本寺に於て月兎子送別を兼ね運座二回  
 寫生五句。作者十六人選者十六人。月兎十五点。不割石十三点。

瓢郎十一點。綠耳。紅鱗九點。李王八點。對泉巨足七點。岸三  
 渭南六點。十七公戰車五點。以下略。入選の句  
 五点 寺門入れば銀杏大樹に秋の風 月兎